

6 「さぬきエンジェルスイート」の 安定生産技術の確立に向けて

■ J A 香川県中央地区キウイフルーツ部会 ■

(東讃農業改良普及センター 中村智哉)

●対象の概要

J A 香川県中央地区キウイフルーツ部会では、有利販売を目指して、県オリジナル品種を積極的に導入するとともに、大玉果生産や袋かけ栽培に取り組み、高品質化や他産地との差別化を図っている。部会員数は46名で、高松市と三木町で「香緑」と「さぬきゴールド」を主力に、「さぬきエンジェルスイート」を加えた3品種7.0haの栽培を行っている。

中でも、「さぬきエンジェルスイート」については、種苗登録に向けた現地試験を実施（平成21年度に2園地、平成22年度に5園地）して以降、導入が進み、現在では生産者15名で、約1haが栽培されている。

●課題を取り上げた理由

「さぬきエンジェルスイート」は、果肉の赤いリングが特徴で、糖度が高く、食味が良いことから、市場で高い評価を得ており、生産量の拡大が望まれている。しかし、園地条件によっては樹体の生育不良や収量の低下、果実の肥大不良がみられるうえ、他品種よりもカメムシ被害や果実軟腐病が発生しやすいことから生産拡大が進んでいない状況である。

こうした中、昨年度の活動を通じて、①生育不良園は地下水位が高く粘土質の水田転換園が多いこと、②一文字整枝による密植栽培（6m×3m）（図1）を行っている中讃地域では樹勢の低下がみられないこと、③カメムシ対策として、「底なし」の果実袋を「底あり」に変更しても、ほとんど効果がないこと、などが判明した。本年度はこれらの成果を踏まえて、①栽培適地への植え付け、②樹勢の強化による収量安定化、③カメムシ被害の防止などに取り組むこととし、以下の活動を行った。

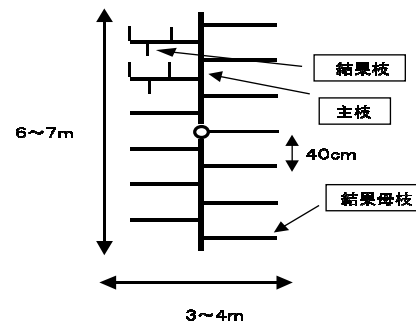


図-1 一文字整枝の基本樹形

●普及活動の経過

1 栽培適地への導入推進

「さぬきエンジェルスイート」の樹勢は土質や地下水位の影響を強く受けることから、新規に植え付ける場合、J Aと普及センターが協力して土壌の調査を行うこととし、そのルール化に取り組んだ。

2 密植による樹勢の強化

1) 優良園地視察の実施

一文字整枝による密植栽培に取り組んでいる善通寺市において、「さぬきエンジェルスイート」の生産者と新卒の作付希望者を対象とした視察研修を実施し、一文字整枝の方法等について現地の生産者と意見交換を行った(写真1)。



写真-1 善通寺市における視察研修

2) 一文字整枝の普及に向けた取り組み

優良園地視察の結果を踏まえ、樹勢の低下によって、樹冠の拡大が図られていない園地への、一文字整枝による密植栽培を導入するため、生育中の3年生樹を一文字整枝に切り替え、展示ほを設置した（写真2）。



写真-2 一文字整枝展示ほの設置

3 総合的なカメムシ防除対策の確立

1) カメムシの発生消長の調査

薬剤防除の適期を把握するため、昨年、カメムシの被害が多かった園地において、6月～10月のカメムシ発生消長の調査を実施した。調査は、亀水町でチャバネカメムシ用フェロモン（日植防）を貼付した粘着版を用いて2～3日おきに誘殺数の計測を行った。

2) 果実袋の検討

同園地と中山町園地（計2園地）において、ビワでカメムシ被害を軽減する効果が認められている二重袋を使用して、キウイフルーツでの効果の検証を行った。

●普及活動の成果

1 栽培適地への導入推進

高品質果実を生産するうえで適地への導入が不可欠であるとの認識を部会やJAと共有化することで、導入以前の土壌調査の実施について、ルール化することができた。

2 密植による樹勢の強化

視察研修によって「さぬきエンジェルスイート」の一文字整枝による密植栽培に対する理解を深めることができ、本研修に参加した生産者からは本技術の導入による樹勢の強

化と大玉化に取り組む声が聞かれた。

また、一文字整枝の展示ほについては、今後の生育の経過や果実品質について調査を行うとともに、夏枝管理などの樹体管理技術の習得に向けた研修の場として活用する計画である。

3 総合的なカメムシ防除対策の確立

カメムシの誘殺数調査の結果から、カメムシの発生ピークは7月中下旬であったことが明らかとなった（図2）。本調査については、来年度以降も継続して行い、カメムシの防除適期の検討を行う。

しかし、二重袋による被害の軽減効果の調査については、二重袋を使用した区と慣行袋を使用した区ともに被害が確認されず、効果を検証することはできなかった。

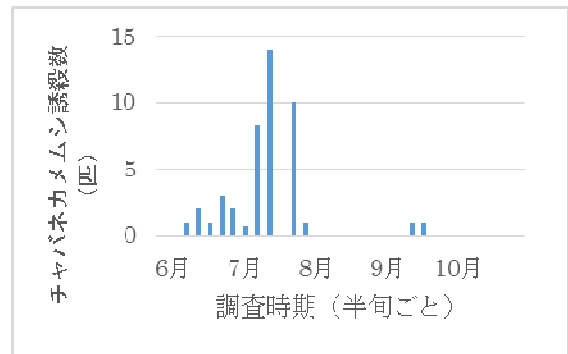


図2. キウイフルーツ園（亀水）でのチャバネカメムシ誘殺数の推移（匹/半旬）

※7月第4半旬は台風11号のためデータなし

●今後の普及活動の課題

今後、部会やJAと連携しながら、「さぬきエンジェルスイート」の新規植栽園地では一文字整枝の導入を推進する計画である。そのためには夏枝管理など年間を通じた栽培管理の徹底が必要であり、今後も講習会などを通じて管理の徹底を呼びかけるとともに、新規栽培者などについては重点的に個別指導を行い、年間を通じた管理技術の習得を図る。

また、カメムシ被害について、来年度以降も継続して果実袋の検討、発生消長を踏まえた適期農薬散布の呼びかけなどを行う。

さらに、本年発生が多かった果実軟腐病についても、病害虫防除所などと連携して防除体系の見直しに向けて検討する。